

LIONS NEWS

LIONS CLUBS INTERNATIONAL DISTRICT 330-A

Vol.3 2024 January

団結の力が未来を築く



「新年のご挨拶と被災地の皆さまへのお見舞い」



ライオンズクラブ国際協会 330-A地区 地区ガバナー **阿部 かな子**

330-A 地区メンバーの皆様、新年明けましておめでとうございます。本年が皆様にとりまして素晴らしい年となりますようご祈念申し上げます。

昨年 7 月から 12 月までの上半期にわたり、こどもの未来を応援する活動をはじめ、様々な奉仕活動にご協力をいただき感謝の念に堪えません。各委員会やプロジェクトチームの委員の皆様はもちろんのこと、多くのメンバーの皆様のご参加やご協力により進んでおりますことに改めて感謝申し上げます。

さて、令和 6 年元日には能登半島地震、2 日には羽田空港での JAL 機と海保機衝突事故、3 日には 北九州小倉で大規模火災と、年初以来続いている災害に心を痛めている方がたくさんおられると思います。

被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

330-A 地区としましても、複合地区や現地ガバナーと連携を図りながら活動していく所存です。すでに街頭募金活動を実施または計画されているクラブもあるかと存じますが、各クラブに街頭募金等の実施にご協力をいただきたい旨の文書を発信し、リジョンチェアパーソンの皆様にも個別にお話をさせていただきました。

LCIF(ライオンズクラブ国際財団) が 10 万ドルの大災害復興支援交付金の拠出を決定したことを受け、

集められました義捐金はキャビネットにて取りまとめさせていただき、LCIF 能登半島地震大災害復興支援指定寄付に充当、または、330-A 地区キャビネットの判断による独自の寄付をお選びいただくこととし、全額を能登半島地震の復興支援に充てることとさせていただいております。330-A 地区の全員が一致団結し、今出来る事、ライオンズクラブの信頼を胸に行動をともに活動したいと存じます。

最後にライオンズクラブは人のために奉仕させていただくことを喜びとする人の集まりです。「ライオンズクラブに所属しているからこそ、地区に約 5,300 人の仲間がいるからこそ、できることがある」のですから、心を一つにして、あらゆる困難に立ち向かい克服することができるのだと思います。今年も多くの皆様の助けとなれますようさらにアクティビティを進めて参りたいと存じます。

【愛と絆と情熱】を胸に引き続きご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶と被災地の皆さまへのお見舞いとさせていただきます。

団結の力が未来を築く





令和 6 年度増上寺献血活動について



令和 6 年 1 月 2 日と 3 日、日本赤十字社とライオンズクラブ (以下 LC) の毎年恒例の「お正月増上寺・献血活動」が行われました。今年で共催 8 年目を迎え本堂左手駐車場にテントを張って行われました。LC メンバー約 10 人が交代で朝 10 時～16 時まで参道両側で献血案内看板を胸に掲げ呼びかけました。阿部ガバナールから大久保委員長 (三献・骨髄移植委員会) へ、前日元旦に突如北陸地方などを襲った「能登半島地震の被災地支援募金実施の要請」があり、急遽献血会場での募金活動の許可を増上寺にお願いしました。これまで境内での募金活動は行われたことが無く、大久保委員長の尽力により増上寺から特別に募金活動の許可をいただき実施することが出来ました。両日共に初詣の参拝者が引きも切らず続く中、緊急対策アラート委員会のメンバーと共に活動し 50 万円を超える募金が集まりました。また今回は献血に加えて骨髄バンクのドナー登録会も開催。二日間で献血申込が 155 名中採血実施 143 名、骨髄ドナー登録者 17 名でした。これまで実施した中で最高の結果となりました。能登半島地震の影響で石川県・富山県の献血ルームが稼働出来ず、東京からの血液を供給しなければならない中 LC の協力にて日本赤十字社にもたいへん感謝されました。LC の献血活動参加者は二日間で約 100 名、事前の申込をはるかに上回る協力を頂きました。

LC と日本赤十字社との献血協力の歴史は古く東京秋葉原 LC が昭和 41 年にアクティビティとして始めた献血が最初だそうです。その後昭和 50 年に日赤との協賛で CN10 周年記念事業として「誕生日に献血を」のキャッチフレーズを掲げて全国献血 PR 大キャンペーンを実施しさらに 10 周年記念事業の一環として広尾の日赤中央献血センター落成記念に当時の佐藤三蔵 G 自筆の「誕生日に献血を」の直径 1m 丸形モニュメントと「献血発祥の地」の台座が寄贈され現在も当地に建っています。

詳細は右記 URL に記載されています。https://www.thelion-mag.jp/1808hi01 また、330-A 地区から日赤へ昭和 48 年以降「採血車」「検診車」「血液運搬車」「献血広報車」が合計 102 台 (LC メンバー個人での寄贈も含む) が寄贈されたと日本赤十字社の記録に有りました。

(上記寄稿文及びデータは一部三献・骨髄大久保委員長及び日本赤十字社立川事業所乙訓所長からのメールを引用しています。)

広報・IT 委員会 茂岡幹弥



緊急対談

阿部かな子ガバナー × 下山田敬介理事長

ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区ガバナー

公益社団法人 東京青年会議所 (以下東京 JC)
第 74 代理事長

私たち 330-A 地区 (以下 LC) は、東京都内に約 190 クラブあり、70 年以上にわたり、様々なテーマ・分野で社会奉仕活動を行っている。

今回対談をお願いした東京 JC は、20 歳～40 歳の若い世代で構成され、「社会の制度改革、市民の意識改革」等を中心にした活動を行っている。都内 23 区ごとに委員会があり、共生、経済、国際、教育、福祉、政治行政等の政策について探求し、地域のニーズの捉え方、課題の見出し方、その解決手法 (事業) に独自性、柔軟性があると地域社会や行政等から評価を得ている団体である。(1949 年設立・主な事業: わんぱく相撲、公開討論会等) 今回、地域での活動とともに政策提言を行っている東京 JC 理事長下山田敬介様と各クラブが独自に多岐にわたるテーマで活動している LC 阿部かな子ガバナーの対談を企画し、共通のテーマでの連携、協力関係構築を目指して意見交換を行った。

開催日: 2023 年 11 月 29 日 於: ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区事務局

330-A 地区キャビネット広報・IT 委員会 企画編集・ファシリテーター: 副委員長 L 赤尾嘉晃 撮影記録: アドバイザー L 坂本純一

Special conversation

「令和時代のボランティアの役割と首都東京ならではのニーズって何?」
お互いを知り、連携可能な事業分野を探り、協力関係構築へ

① 各々の団体の特徴と運動・活動において (特に今年度) 目指していることはどんなことでしょうか。

東京 JC 下山田理事長 (以下理事長)
今期は約 700 名のメンバーでスタートスローガン、23 の輝き

Let's Join The Legacy Of Tokyo

として「明るい豊かな社会の実現」の追求から「輝く個性が調和する持続可能な地域の創造」を目指しています。

10 月 32 年ぶりに東京で日本青年会議所の全国大会を開催。人・モノ・金・情報が集まる東京と地方都市との共生共栄、国力を高めること等を全国の JC メンバーと議論しました。

330-A 地区阿部ガバナー (以下ガバナー) 今期は約 5300 人でスタートし、団結の力が未来を築くをテーマに、「愛と絆と情熱で希望が持てる社会の実現」を目指しています。70 年を超える歴史を受け継ぎながら、メンバーが汗をかき感動を分かち合うため、子どもの未来応援委員会を新設して「子どもの貧困の連鎖を取り除くための活動」を積極的に展開しています。



ダーシップを発揮できるよう育成することが役割と考えています。

ガバナーLCには年齢による卒業がありません。幅広い世代間のコミュニケーション（連絡手段）をとる方法にも郵送、電話、FAX、インターネット系と4つあり、どんな世代へも優しい情報伝達を一番に考えています。毎年9月に約190クラブの会長、幹事と懇談する機会があり地域に根差したアクティビティ（事業）実施状況をヒヤリングしてニーズ変化を把握しています。LCは、活動できる仲間を増やし「東京をワクワクさせる」ことで地域リーダーの役割を担っていると思っています。

③東京ならではの課題（問題点）は何だと思えますか、それらを解決するため具体的な方法（案）はありますか。

理事長 少子高齢化、生産人口の減少そして若者の国際経験の少なさ、起業家精神の欠如だと思っています。リスクを恐れず新しいことに挑戦して何かを学ぶという姿勢が大切です。東京JICで奉仕、修練、友情そしてリーダーシップを学べば課題は解決できる可能性はあると思います。

②新時代令和になり、地域社会のニーズ変化を感じていますか、その中で地域での東京JICやLCの役割は変わってきましたか。

理事長 能力開発と社会開発の2本の軸で変化へ対応しています。JCI（青年会議所）は、ミッションとして若者にリーダーシップの成長と発展の機会提供を掲げています。地域のニーズが変化しても、利他の精神（他人の幸福を願うこと）を持つリーダー育成は普遍と捉えています。JICでトレーニングを受けた若手メンバーが地域事業に参加して様々なポジションに適応し（社会開発）、その時代に求められるスキル、リ

医療系への受験支援、就労機会の創出等に希望の光をあてて活動しています。

④東京JICとLCが連携して行えるアクティビティ（事業）分野はありますか。どのような連携が力を発揮すると思いますか。

理事長 都全体で政策提言を作成する政策委員会と、奉仕活動を実施している地区（23区）委員会があります。後者は近年(1)都内の子ども食堂のネットワーク化、(2)養護施設の卒業後の独立支援、(3)わんぱく相撲大会等を行っています。(3)はLCとの連携が各地区で実現しています。LCと共通の大きなテーマを見出し東京都全体で何かできればと思います。

ガバナー世の中を良くしたい、希望の光を放っている同じ志を持つJICとLCのメンバー同士がテーマをすり合わせる機会を定期的に設けてこれから一緒に運動したいですね。もし連携できれば社会に大きなインパクトを与えることになり、喜びを分かち合えると思います。

⑤東京JICのメンバーが将来ライオンズクラブに入会するためには、どのようなきっかけが必要だと思いますか。添付の動画をご覧ください

<https://youtu.be/SHbJvHTmrl>

理事長 やりたいことをする、社会奉仕をすれば人生が豊かになります。今日の対談でLCのことがよく理解できました。ありがとうございます。

結びに、JICからLCへの要望・希望がありましたらお願いします。

理事長 3つあります。

- (1) LCの皆様は人生の先輩です。かつこよく活動が続けて下さい。
- (2) 将来的に様々なテーマをすり合わせ一緒に社会を良くしていきたいです。
- (3) JICは20〜40歳の団体です。能力向上、社会を良くしたいと思っている若い世代を是非東京JICに紹介してください。



温故知新

第一回「すずらん給食」の時代背景

全国の欠食児童を救った「すずらん給食」アクティビティ
岩手県・盛岡ライオンズクラブから全国へと広がった完全給食実施



「すずらん給食」とは

今から59年前、東京オリンピックの翌年、1965年(昭和40年)に「すずらん給食」と呼ばれる奉仕活動が岩手県で生まれしました。岩手県・藪川の子どもたちに完全給食(※1)を提供するために、盛岡ライオンズクラブ(以下LC)を中心に始まった活動のことです。この活動により、辺地の実態がマスコミ(最初は主に毎日新聞)報道され、当時の首相佐藤栄作を動かし、辺地校の給食施策が著しく改善されていきました。

盛岡LCから始まったこの活動は、日本国民の心に響き、政府をも動かし、全額国库予算による全国の辺地校での給食提供へとつながります。

岩手県・藪川の「へき地4級」(※2)の併設校の存在

1964年頃の岩手県・藪川には、へき地度が上から2番目に高い「へき地4級」の併設校がありました。この併設校は、盛岡駅から距離にして約50km(品川から茅ヶ崎の距離)、路線バスに2時間揺られた終点バス停から更に2時間歩いた先。冬には、深さ1mを超す大雪に県道は埋まり、交通は完全にストップします。へき地の多い岩手県でも特にひどいへき地だと言われていました。そんな併設校がある藪川は、谷間が少し開け、盆地状になったところに十数個の農家の集落がありました。



1960年代半ばの岩手県藪川小・中学校

を主食にするしかなかったそうです。カロリーが少ないヒエ飯を食べていては、重労働の農作業が満足にできるわけありません。これらの主食事情から家族全員が三食食べることができず、バランスの良い食事をとれていなかった厳しい状況が終戦から20年以上経過しても続いていたようです。

2人に1人は弁当なしのへき地校の実態

1964年当時の藪川の学校は本校と分校が2校ありました。へき地4級の本校には小・中学生が合計180人、へき地3級の分校1校は小・中学生合計70人、へき地4級の分校1校は小学生9人が在籍していました。児童の食生活は、1963年から政府の補助で脱脂粉乳によるミルク給食が無料になりましたが、約1年で打ち切り。その後、村の教育委員会は費用がない中、村費補助で週3日ミルク給食(※1)、週2日は材料を持ち寄つてのミソ汁給食(※1)を実施していました。

保護者、兄弟姉妹の大部分は食べるだけで精一杯、現金収入の少ない農家で、給食費を負担することができず、弁当のない児童が毎年増加していました。弁当の無い児童は、アルマイトのボウルに入っ

た脱脂粉乳のミルク一杯だけが昼食の日もありました。農閑期などには、全校の半分以上の生徒が弁当無しの状態が続き、中には数日間食事をとることができず、腹痛を訴える児童・生徒もいました。当時、へき地三校で栄養調査を行ったところ、本校で34人、両分校では20人、合計54人の欠食児がいました。町の学校（完全給食実施校）では普通一番楽しい時である昼食の時間が、へき地校では子どもたちの表情は暗く沈み、話し声も聞こえない光景が広がっていました。

改善されない給食実態

本校の校長はこのような給食事情を改善すべく、「完全給食で欠食児を救おう」と村教育委員会に交渉しましたが、予算難で対応してもらうことができませんでした。この時予算は、道路の整備などを中心に使われていました。都市部や、東京都との生活格差が少ない岩手県内の県都（盛岡市街地）では、へき地の現状、欠食児がいる事実があまり知られていませんでした。しかし、実際には岩手県だけではなく全国の辺地校の生徒数14万人が、日々必要な栄養を得ることが出来ず苦しんでいたのです。第一回の「すずらん給食」の時代背景はここからです。

●参考コラム

※1) 給食には、1 完全給食（パンまたは米飯、ミルク、おかずの三品）、2 捕食給食（ミルク、おかずの二品）、3 ミルク・味噌汁給食（ミルクか味噌汁の一品）の3分類されていた。

※2) へき地（辺地）：公立学校の教職員に対する「へき地手当」の額を定めるための等級。数字が大きいほど都会から離れている

●参考文献

すずらん給食物語 前野和久・著 砂書房 1994年3月17日 第1版第1刷発行

当時のへき地と都心部・県中心部の学校給食を比べてみましょう。



◀へき地の給食

1963年～脱脂粉乳によるミルク給食（脱脂粉乳のみ）

1964年 週3日 脱脂粉乳。

週2日持ち寄りによるミソ汁（具材は山でとれた フキやワラビ）。

都心部・県中心部の給食▶

1952年4月から、全国すべての小学校を対象に完全給食が開始しました。

コッペパン、ミルク（脱脂粉乳）、鯨肉の竜田揚げ、せん切りキャベツ、ジャム

1964年揚げパン、ミルク（脱脂粉乳または混合乳）、おでん 揚げパンなどの調理したパンが給食で使われるようになりました。



担当：L 坪坂有純（東京新宿 LC 所属） L 赤尾嘉晃（東京豊新 LC 所属）

次回予告

次号第2回では、この状況を知り、盛岡 LC がどのようにかわり、行動を起こしたか。また、なぜ「すずらん給食」と呼ばれるようになったか、そして日本全国に運動が広がり、政府を動かすことにつながったかを記していきます。

なお、本アクティビティを実施した盛岡 LC（今期幹事：浅沼克人 L）に取材を申し入れたところ快く対応してくださり、きっかけを作ったといわれている「故中村七三 L」からその当時の話を聞いている「伊藤英明 L」へのインタビューを実施予定です。第二回以降にその内容を掲載いたします。「すずらん給食」実施への過程、地元地域での評判、その後の奨学金制度整備への展開などをお聞きする予定です。ご期待ください。



編集後記

2024年(令和6年)元日夕刻に起きました北陸・能登半島地震により被災された方々そして関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、ここ数年「TV離れ」という言葉をよく耳にします。YouTube や X(旧 Twitter)などで欲しい情報を都合の良い時間に視聴することが一般的になりました。そんな中、私がTVの前に座って見るものがあります。NHKの「映像の世紀バタフライエフェクト」です。気象学者のエドワード・ロレンツの蝶の羽ばたきが遠く離れた場所で竜巻を引き起こすか?というバタフライ効果を主テーマにした番組です。

20世紀になって撮影された映像(きっかけとなった行動)が現代の人々に影響を及ぼしているかを結び付け、21世紀の未来を考える番組です。例えば「ビートルズの登場」や「スエズ運河、ユーロトンネルなど新しい交通手段を得たこと」が、人種に対する考え方や市民の生活、価値観を変化させたことなどを興味深く描いています。

私たち LCメンバーがアンテナを高くして街のちょっとした課題を見出し、解決策を世の中へ発信していけば、10年20年後には大きな変化につながるかもしれません。これからも「蝶の羽ばたき」に「希望の光」をあてる広報活動をしていきたいと思います。是非、クラブの情報発信のツール(手段・道具)として本誌や330-A地区ホームページ、330-A LINEを活用いただければ幸いです。2024年もよろしく願いいたします。L 赤尾嘉晃(東京豊新 LC 所属)



電子版

2023-24 広報・IT 委員会

L 藤田 紘子	委員長	東京ヒルズ LC	L 茂岡 幹弥	委員	東京白門 LC
L 石橋 卓磨	副委員長	東京稲門 LC	L 坪坂 有純	委員	東京新宿 LC
L 小野 健志	副委員長	東京平成 LC	L 三代 勝之	委員	東京スバル LC
L 河田 淳一	副委員長	東京平成 LC	L 石田 賢	委員	東京三鷹 LC
L 吉岡 晋	副委員長	東京けやき LC	L 根岸 雅也	委員	東京八王子いちよう LC
L 赤尾 嘉晃	副委員長	東京豊新 LC	L 坪谷 茂	アドバイザー	東京平成 LC
L 大和田 博道	委員	東京葵 LC	L 坂本 純一	アドバイザー	東京三鷹 LC
L 茂原 由美	委員	東京麻布 LC	L 向井 忠義	アドバイザー	東京小金井 LC
L 柿澤 幸絵	委員	東京江東南 LC			

ライオンズ国際協会 330-A地区 ライオンズニュース vol.3

発行人:広報・IT委員会 委員長 L 藤田 紘子

発行:2024年01月

202400131

Copyright 2023-24 330-A Lions Clubs International All Rights Reserved.